**校 長 　中山　哲也**

**平成31年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| 生徒の個性を尊重し、豊かな人間性をはぐくみ、志を高く時代を切り拓く人材を育てる学校～　「茨西PRIDE」のもと、茨西につながるすべての人が「TEAM茨西」として、生徒それぞれの「志をカタチに」する　～C:\Users\t-nakayamate\Desktop\プライドのみ.png【生徒に育みたい力】　◇ 確かな学力を基礎に、高い志を持ち、グローバル社会を切り拓く力◇ 生徒が自身に誇りを持ち、社会人として自律できる力◇ 母校愛を涵養し、地域そして世界とつながる力【教職員に求める力】　◇ 同僚性を高め、生徒に真摯に向き合う力 |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| **１．*“確かな学力”*の育成**　　（１）生徒の学習支援の強化ア 授業規律の一層の徹底　　　　　　イ 学習支援体制の構築と教育産業の有効利用　　　　　　ウ 自学自習のハード＆ソフトの整備　（２）グローバル人材の育成　　　　　　ア EFHSの取り組みを引き継ぎ、英語四技能習得にむけた教育活動の推進　　（３）「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力」の育成、「学びに向かう力・人間性」を育むための授業力向上　　　　　　ア 授業評価のPDCAサイクルによる授業改善と教員相互が切磋琢磨できる環境づくり　　　　　　イ アクティブ・ラーニング（AL）及びICTを活用した能動的授業の推進※　学校教育自己診断（保護者版）、授業のわかりやすさに係る肯定回答率、2021年度6０％以上をめざす。（H29：52%・H30：55%）※　学校教育自己診断（教職員版）、ALへ取組む教職員の割合、2021年度90%以上をめざす。（H29：88%・H30：70％）**２．志高く*“社会を切り拓く力”*の育成　　▷「志をカタチに」**（１）生徒の将来を見据えたキャリアサポート　　　　　ア 全方位の進路マップによる、早期の生徒・保護者の進路意識の醸成イ 高大連携やフィールドワーク等によるキャリア意識の涵養　　　　※　第3学年4月の進路希望調査（4年制大学・短期大学進学者）の実現率、2021年度8０%以上をめざす。（H29：76%・H30：62％）※　2021年度、４年制大学への進学率60％をめざす。（H29：48%・H30：35％）**３．生徒が自身に誇りを持ち、将来社会人としての*“自律する力”*を育む　　▷「茨西PRIDE」の涵養**（１）自律を促す教育活動の展開ア 基本的生活習慣の確立と規範意識の向上（２）安全安心な学校づくり　　　　　ア 人権教育委員会及を中心とし豊かな人権感覚を養うと共に、道徳教育の推進を図る。　　　　　イ 教育相談委員会を中心とした教育相談活動の活性化　　　　　ウ 交通安全教育や防災・防犯教育を通した危機管理能力の向上と共助に係わる意識の涵養　　　※　生徒・保護者向け学校教育自己診断「命の大切さ・豊かな心・人権感覚の醸成」に係わる質問の肯定回答率、2021年度75％以上をめざす。（生徒・保護者回答の平均　H29：68%・H30：71％）　　　**４．学校・家庭・地域・世界と*“つながる力”*の育成　　▷「TEAM茨西」の形成**（１）各種HR活動・生徒会活動・部活動や国際交流行事を通して多種多様な、つながる力を養う。ア HR活動・生徒会活動及び部活動の活性化イ 世界とつながるグローバル市民育成に向けた国際交流事業の一層の推進（２）中高及び小高連携の推進と地域連携の強化　　　　　ア 中高連絡会・地域交流協議会等により地域連携を強化し、地域のボランティア活動を通じ地域貢献を推進する。イ 卒業生・保護者・地域の教育に係る人材等を発掘し協力体制を構築する。（３）家庭との連携及びPTA活動の活性化　　　　　ア 家庭連絡や意思疏通をきめ細かく行い、学校と家庭で連携した教育を推進する。　　　　　イ PTA活動の一層の活性化　　　※　生徒の行事に係わる学校教育自己診断の肯定回答率、2021年度全て85％以上をめざす。（H29：73%・H30：78％）　　　※　部活動への一年次当初の加入率、2021年度75％以上をめざす。（H29：63%・H30：64％）　　　※　保護者への連絡及び意思疎通の項目の肯定回答率、95％以上を維持する。（H29：96%・H30：95%）**５．教職員の*“生徒と向き合う力”*の強化**（１）教職員がチームで生徒と向き合うア 教職員の教育力を伸ばすための組織的・計画的なプランの策定及び実施、および職員研修の実施イ 教職員の働き方改革　　　　※　教職員向け学校教育自己診断において全ての項目で肯定回答率90％以上をめざす。（H29：4/９項目・H30：5/9項目） |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［平成　年　月実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
|  |  |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
| 確かな学力 | 1. **生徒の学習支援**

ア・授業規律の一層の徹底イ・新学習指導要領への対応・学習支援体制の構築　・教育産業の有効利用ウ・勉強合宿による自学自習力の向上・自学自習の環境整備及び運用**(2)グローバル人材の育成**ア・英語教育の一層の推進**(3)授業力向上**ア・PDCAサイクルによる授業改善　・教職員が切磋琢磨できる環境づくりイ・アクティブ・ラーニング（AL）の推進　・ICT活用推進 | **(1)**ア・授業規律の徹底と、聞かせる態勢づくり、ほめる授業の実施イ・魅力あるカリキュラムマネジメント　・長期休暇中の講習や隙間学習の充実　・教育産業を利用した講習の充実ウ・勉強合宿の継続実施・自習室及び質問コーナー活用推進**(2)**ア・英語四技能習得に向けた取組み**(3)**ア・授業アンケートの振り返りによる改善　・授業マイスターの指名とバディシステムによる授業見学の一層の活性化イ・AL研修及び教授法の紹介　・ICT機器の充実と第二LAN教室の有効利用 | **(1)**ア・授業規律を守る生徒の割合の向上（H30：88％）イ・新指導要領に向けた取組み新規・長期休暇中の講習及び「隙間学習」への参加人数・教育産業を利用した講習の見直し及び模試参加者の増加新規ウ・勉強合宿参加者のアンケートの肯定回答90％以上を維持（H30：90％）・自学コーナーの活用者数の増加**(2)**ア・英語四技能検定の実施とPDCAサイクルの構築新規**(3)**ア・授業の振返りシート提出と授業改善に係わる面談回数の増加　・バディシステム利用数120回以上を維持　・授業マイスターの指名と研究授業の活性化イ・AL取り組む教職員の割合増加（H30：70％）　・教職員のICT利用率向上（H30：79%）とICTに係る研修実施 |  |
| 社会を切り拓く力 | **(1)キャリアサポート**ア・進路に係る早期の意識づけ・希望の進路実現イ・キャリア意識の涵養 | **(1)**ア・保護者との進路スケジュール等の共有　・進路実現に向けたサポート強化イ・高大連携の強化及び見直し　・フィールドワーク等を通したキャリア意識の涵養 | **(1)**ア・学校教育自己診断（保護者）「適切な進路指導」肯定回答率アップ（H30：69%）・進路実現率75％以上新規イ・高大連携に係わるアンケート肯定回答70％以上新規　・フィールドワーク等に係わるアンケート肯定回答70％以上新規 |  |
| 自律する力 | **(1)自律を促す教育活動**ア・基本的生活習慣の確立　・規範意識の向上**(2)安全安心な学校づくり**ア・人権感覚の醸成　・道徳教育の推進イ・教育相談活動の活性化ウ・交通安全指導の徹底　・防災教育の強化　・災害発生の迅速な対応　・防犯教育の強化 | **(1)**ア・生活指導の基本方針を周知・遅刻防止指導の徹底　・生徒会主働の規範意識向上の企画**(2)**ア・計画的な人権教育の推進　・計画的な道徳教育の推進イ・教育相談ニュース等による、窓口広報と活動の活性化ウ・入学時の交通安全指導の徹底　・保護者、地域と連携した通学安全指導の継続　・防災訓練を通した共助意識の涵養　・災害時マニュアルの見直しと連絡網の構築　・防犯教育の強化 | **(1)**ア・IBANISHIガイドによる指導方針の伝達新規・遅刻者数5％ダウン（H30：3792名）　・規範意識向上に向けた新企画の実施**(2)**ア・学校教育自己診断（生徒）「命の大切さ、社会のルール」に係るアンケートの肯定回答率アップ（H30：69％）　・道徳教育、茨西スタンダードの策定と実施新規イ・学校教育自己診断（生徒）「相談」に係る項目の肯定回答率アップ（H30：57％）ウ・登下校時の事故数の減少（H30：22件）　・通学安全指導の年10回以上継続実施　・地域と連携した防災訓練の実施　・マニュアル改訂と双方向の連絡体制の構築新規・防犯に係る研修の実施 |  |
| つながる力 | **(1)HR活動、生徒会、部活動の活性化**ア・HR活動の活性化　・生徒会活動の活性化　・部活動の活性化イ・世界とつながる力の涵養**(2)小中及び地域との連携強化**ア・中高連携の強化　・地域連携の強化イ・同窓会活動の活性化　・外部の教育に係わる人材発掘**(3)保護者との連携強化**ア・きめ細かい家庭との連携イ・PTA活動のより一層の活性化 | **(1)**ア・計画的なロングホームルーム（LHR）の実施　・生徒主体の生徒会活動　・部活動参加生徒数の増加イ・海外修学旅行の継続実施　・オーストラリア留学生受入の成功　・海外高校生訪日の受入**(2)**ア・連携３中学校との連携協議会の開催と連携強化　・地域交流協議会の開催と地域行事への参加イ・同窓会との関わり強化・同窓会による同窓会人材バンクの有効利用**(3)**ア・メール配信・封書連絡等を通じ、学校との連携強化イ・PTA活動のより一層の活性化 | **(1)**ア・LHR計画を全学で共有する。　・生徒会行事における満足度アップ（H30：77％）　・１年生の部活動加入率70％以上（H30：64%）イ・海外修学旅行の満足度80％以上 ・オーストラリア留学生受入ホームへのアンケート実施と肯定回答70%以上新規　・国際交流行事への参加者の肯定的な感想**(2)**ア・連携３中学校との連絡会及び出前授業、研修会等の交流の実施　・地域交流協議会の実施と穂積及び春日丘小学校区の行事へのボランティア参加に係る生徒の肯定的な感想イ・同窓会人材バンクを活用した取組みの実施新規　・現役生徒への同窓会による支援**(3)**ア・保護者への情報伝達に係わる肯定回答率95％以上を維持（H30：95％）イ・PTA実行委員会の総括会議での肯定的意見 |  |
| 生徒に向き合う力 | **(1)チームで生徒と向き合う**ア・組織的、計画的なプランの策定及び実施・経験の少ない先生方やミドルリーダーの育成イ・教職員の働き方改革 | **(1)**ア・面談等を通した適材適所の人材配置とクリティカルな研修実施　・QCサークル等の活動の活性化イ・校務の精査とチーム力の向上 | **(1)**ア・教職員向け学校教育自己診断の回収率を高め、質問項目の4項目以上でのポイントアップ新規　・職員研修での肯定回答70％以上新規　・QCサークルの継続実施と新企画の展開新規イ・月当たりの時間外労働が80時間を超える教職員の減少（H30延べ：21名） |  |